

令和 5 年 6 月 28 日現在

機関番号：32412

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2022

課題番号：19K12971

研究課題名（和文）パラケルスス主義と偽パラケルスス文書：近世ドイツ語圏の思想運動における終末論

研究課題名（英文）The Paracelsian Movement and the Pseudo-Paracelsian Texts: Eschatological Moments of the Reform Movement of the Early Modern German-Speaking Area

研究代表者

村瀬 天出夫（Murase, Amadeo）

聖学院大学・人文学部・准教授

研究者番号：40768503

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、科学革命の潮流と宗教改革の潮流が交差する初期近代の「パラケルスス主義」と呼ばれる思想運動について、宗教的な特徴、およびこの運動における偽書群（偽パラケルスス文書）の重要性に光をあてた。偽文書の歴史的な影響を精確に定めようとする本研究のアプローチは、これまで十分に記録されていなかったパラケルスス受容史の一面（初期近代のホムンクルス論の歴史）を補完することができた。またパラケルスス主義が孕む宗教的な側面について、特に終末論的な特徴をパラケルスス死後の支持者たち（P.リンクやO.クロル）について確認するとともに、そこにおける偽文書の影響を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は未開拓の文書群をとりあげることによって初期近代の未開拓領域への貢献を果たした。特に、学問の改革を目指したパラケルスス主義運動が、終末論的な議論を孕んでいたことは、この時代の科学と宗教との関係に新たな知見を加えるものである。また、初期近代のホムンクルス論の歴史は、当時の錬金術的な自然模倣・自然操作の観念が批判・排除されることによって、却って近代文学の素材（ゲーテ『ファウスト』）を準備するという科学思想史と文学史とを繋ぐ視点を提供する。これらの研究成果の一部は一般書店にも流通する書籍やインターネットなどの媒体においても発表され、本研究事業の社会的還元を試みた。

研究成果の概要（英文）：Regarding the reform movement called "Paracelsianism" in the early modern period, where the currents of the Scientific Revolution were intertwined with those of the Reformation, this research has illuminated the religious characteristics of the movement as well as the importance of pseudonymous writings, known as "Pseudo-Paracelsian texts".

With the methodological approach to precisely determining the historical impact of the pseudonymous texts, this study has been able to complement an aspect of the reception history of Paracelsus that has not been sufficiently documented so far, specifically the history of the homunculus theory in the early modern period.

Furthermore, this research investigated the religious aspects embedded in the Paracelsianism, particularly its eschatological features. It examined these aspects among the followers of Paracelsus after his death (such as P. Link and O. Croll), and elucidated the influence of the pseudonymous writings within that context.

研究分野：科学思想史

キーワード：パラケルスス主義 近世 ドイツ語圏 偽書 終末論 パラケルスス

1. 研究開始当初の背景

2018年に終了した科研費助成による研究課題において、研究代表者はすでに初期近代ドイツ語圏の医師パラケルススおよび彼に端を発する学問改革運動パラケルスス主義にみられる「宗教性」に光を当ててきた(課題番号:16K21332/若手B:平成28年度~30年度)。本研究課題はこれの発展的な継続にあたる。

パラケルススとパラケルスス主義についての研究は、その思想が近代医学および近代科学の成立に重要な役割を果たしたことから、これまでの研究者の関心が医学・自然科学的な思想に集中してきた。しかし1990年代以降、研究者の関心はパラケルススの神学思想へとシフトしつつある。パラケルススとパラケルスス主義者たちの「宗教性」に光を当て、その思想の後世への影響を再検討しようとする機運が高まってきたのである。

このような近年のパラケルスス研究の新たな動向を背景として、研究代表者はこれまでパラケルススの医学・自然科学思想についての伝統的な研究と、新たな動向である神学研究との統合を目指してきた。具体的には1560年代以降の「医学的パラケルスス主義」を取り上げ、17世紀「科学革命」につながる医学・化学上の思想がいかにパラケルススとその支持者たち固有のキリスト教思想(とくに終末論的な世界観)によって支えられていたかを明らかにし、この「医学的パラケルスス主義」が16世紀末以降、医学・化学的な領域を越えて、宗教思想としての性格を強めていったことを確認した(注1)。

これらの過去研究で見えてきた「偽パラケルスス文書群」とその受容過程の重要性について、その包括的な検討は今なおなされていないため、これを本研究の課題とするに至った。研究開始当初はこれら偽文書群をテーマにした研究プロジェクトがちょうど開始されたところであり(注2)本研究はこのような研究動向に連なるものとして企画された。

注1: Amadeo Murase, *Paracelsismus und Chiliasmus im deutschsprachigen Kulturraum um 1660*, Diss. Univ. Heidelberg 2013; および上記研究課題(16K21332)の研究成果報告書を参照。

注2: 国際的研究プロジェクト「Pseudo-Paracelsus」ウェブサイト <https://www.pseudoparacelsus.org>

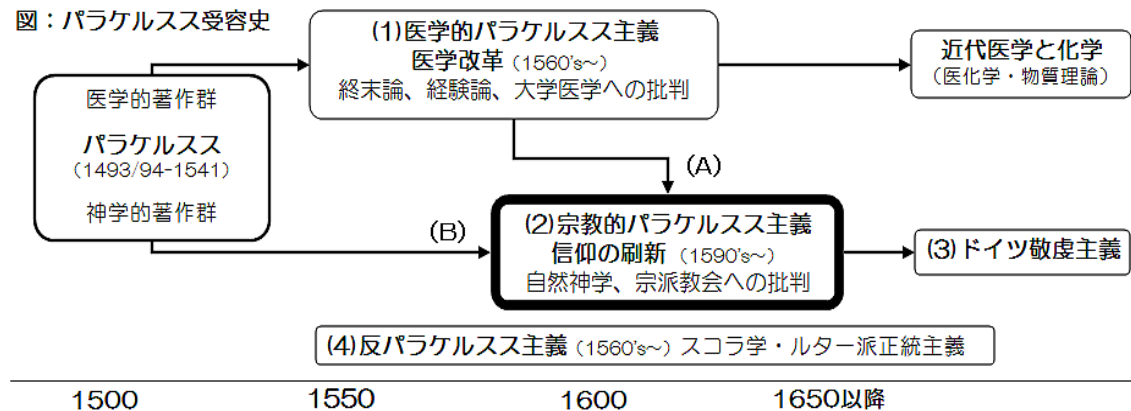
2. 研究の目的

本研究の目的は近世における「科学」と「宗教」の交流点の一つを明らかにすることである。彼らが生きた16世紀は、近代科学が勃興する「科学革命」の時代であるとともに、ルターによる「宗教改革」が進展していった時代である。このような変革の時代において科学思想と宗教思想とが分かちがたく結びついた統合的思想史の一例を当時の「パラケルスス主義」をもとに提示する。

包括的な「パラケルスス主義」研究の計画案を下図に示す。本研究は「(1)医学的パラケルスス主義」が「(2)宗教的パラケルスス主義」へどのような影響を与え、また前者(1)から後者(2)へどのように発展・変容していったか(矢印A)を明確にする。

なお「(2)宗教的パラケルスス主義」から「(3)ドイツ経験主義」への影響、「(4)反パラケルスス主義による反応と批判」については今後の研究課題とする。

図:パラケルスス受容史



3. 研究の方法

本研究が対象とする領域は今なお大部分が未開拓の状態にあり、資料はこれまで扱われてこなかった文献(校訂版の欠けるテキスト、写本、草稿、書簡)が中心となる。その中でも特にパラケルススの死後に次々と現れた偽文書(「偽パラケルスス文書」)をとりあげる。「偽パラケルスス」と呼ばれる著者らによって執筆された一連の偽文書群は、これまでの科学史研究においてはあまり注目されてこなかったが、近年のパラケルスス研究(特に受容史の観点)においてその重要性が認識されるようになった(上記注2)。本研究は今なお十分な研究と評価がなされてい

ないこれらの偽パラケルスス文書 (*De tinctura physicorum*, *De natura rerum*, *Aurora philosophorum* など) をとりあげ、そこにおける終末論的な議論を把握するとともに「パラケルスス主義」という改革運動の思想的特徴として評価し位置づけ方法を用いた。

4. 研究成果

【主な成果】本研究は、初期近代における科学と宗教との交流点としてのパラケルスス主義に光をあてるものであるが(2. 研究目的)、それにあたっては特に偽パラケルスス文書の歴史的な影響を定めていく手法をとった(3. 研究の方法)。主な研究成果は大きく分けてふたつ指摘できる。

ひとつは研究題目の「パラケルスス主義と偽パラケルスス文書」について、パラケルススの錬金術思想、特に「ホムンクルス論」にかかわる。ゲーテの『ファウスト』(第2部)には、錬金術の実験によって人造人間(ホムンクルス)を産み出すというシーンが描かれるが、この着想をゲーテはパラケルススから得ていたことが知られている。このパラケルススの「ホムンクルス論」について本研究は、パラケルススの真正文書(*Liber de imaginibus* など)と偽文書(特に *De natura rerum*)との比較をすることによって、パラケルススからゲーテに至るまでの受容プロセス、特にこれまで知られていなかった近世におけるホムンクルス論およびパラケルススにかかわる歴史的評価の変容過程を明らかにした。

そこにおいてパラケルススの「ホムンクルス論」は3つに分類されること、歴史的に3種のあいだには競合が起こっていたこと、その競合状態において偽パラケルススの文書(*De natura rerum*)が特に重要な影響力を発揮したことを確認した。死後のパラケルスス主義と、それに対抗する反パラケルスス主義におけるホムンクルス論の受容を辿ったこの研究成果は、科学史関連の国際誌『*Ambix*』で刊行された(2020年)。またこの成果の一部は百科事典『*Encyclopedia of Early Modern Philosophy and the Sciences*』(Springer社、2022年)の事典項目にも反映されている。また研究成果の一部をもとにした日本語論文を執筆中である(2024年春頃刊行予定)。

もうひとつは研究題目の「偽パラケルスス文書」と「終末論」にかかわる。初期近代の学問改革運動であるパラケルスス主義の「宗教化」と「終末論」については、先立つ科研費研究課題(16K21332)から調査を継続しているが、今回の研究課題においてより深化させるとともに、その成果を準備発表・刊行することができた。三十年戦争(1618-48)直前の「宗教的パラケルスス主義者」パウル・リンクとその終末論についての独語論文を執筆し、これの築田航氏による邦訳が刊行された(2020年)。このようなパラケルスス主義の終末論においては、特に偽パラケルスス文書「*De tinctura physicorum*」が重要であることが確認された。この文書について、他のパラケルスス主義者(オズワルド・クロール)における受容と発展を、米国ルネサンス学会(2023年)で発表、現在英語論文を執筆中である。

その他、本研究課題の一部をもとにした成果を刊行することができた。アウトプットについては学術専門誌での発表に加えて、一般の書店でも手に取れる書籍やインターネットなどの媒体での社会的還元を試みた。

【当初予期していなかった知見】実施期間中に世界的な新型感染症が拡大し、これに関する所属機関での諸々の対応(コロナ禍における教育および大学運営)、また国を超えた移動が滞ったことにより、本研究課題においても研究活動が遅滞することとなった。また、予定されていた国際会議等が延期となったため、実施期間を1年延長するとともに、その間オンラインでの成果発表に努めた。特に一昨年から引き続いて進めてきた、偽パラケルスス文書群と真正文書「*Liber de nymphis*」との比較および後世の受容史については、新型感染症の対応でその成果発表が遅れているが、現在2024年春の刊行を目指している。

【今後の展望】なお、2022年度からは新たに研究代表者を務める科研費事業「中世・近世イスラム圏と西欧における『魔術的知』の交流史」(22H00610)が開始された。本研究題目とも密接に関連するテーマを扱っているため、本研究事業は発展的にこの新規科研事業に接続していくことになった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Murase Amadeo	4. 巻 NA
2. 論文標題 Homunculus	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Encyclopedia of Early Modern Philosophy and the Sciences	6. 最初と最後の頁 1~3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/978-3-319-20791-9_479-1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Murase Amadeo	4. 巻 NA
2. 論文標題 Becher, Johann Joachim	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Encyclopedia of Early Modern Philosophy and the Sciences	6. 最初と最後の頁 1~3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/978-3-319-20791-9_485-1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村瀬 天出夫[著] , 築田 航[訳]	4. 巻 81(1)
2. 論文標題 錬金術と終末論 : ドイツのパラケルス主義者 : パウル・リンクとその救済史観 (<特集>ルネサンスにおけるテキスト・知識人・政治)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 史苑(THE JOURNAL OF HISTORICAL STUDIES)	6. 最初と最後の頁 86-100
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14992/00020426	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Amadeo Murase (村瀬天出夫)	4. 巻 67
2. 論文標題 The Homunculus and the Paracelsian Liber de imaginibus	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Ambix	6. 最初と最後の頁 47~61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/00026980.2020.1720359	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 村瀬天出夫
2. 発表標題 パラケルススはプラトン主義者か
3. 学会等名 新プラトン主義協会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Amadeo Murase (村瀬天出夫)
2. 発表標題 Text studies and translation issues : Liber de imaginibus
3. 学会等名 Paracelse et les apocryphes pseudo-paracelsiens/ Paracelsus and his followers under investigation (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Amadeo Murase (村瀬天出夫)
2. 発表標題 Homunculus of Paracelsus: Its Typology and Reception
3. 学会等名 Sixteenth Century Society & Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 日本科学史学会	4. 発行年 2021年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 758
3. 書名 科学史事典	

1. 著者名 井出 万秀(編)、川島 隆(編)、村瀬 天出夫(共著)、ほか	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ひつじ書房	5. 総ページ数 276
3. 書名 ドイツ語と向き合う	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>新プラトン主義協会大会【第28回 新プラトン主義協会大会】 http://jsns.jp/wp/?page_id=8 丸善出版「科学史事典」 https://www.maruzen-publishing.co.jp/item/b304125.html YouTube「BHチャンネル」2020年11月16日公開「対談」 https://www.youtube.com/watch?v=4xFQ_2wMRVc 立教大学学術リポジトリ「史苑」 http://doi.org/10.14992/00020426 Encyclopedia of Early Modern Philosophy and ... https://link.springer.com/referencework/10.1007/978-3-319-20791-9 Fondation de Treilles https://lestreilles.hypotheses.org/86 University Sorbonne CELLF, Prof. Didier Kahn https://cellf.cnrs.fr/membre/didier-kahn/</p>
--

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------